

鳥取森林管理署

担当者
 森林技術指導官：杉本 武
 TEL：050-3160-6125

- 鳥取県の森林は、県土の74%に当たる259千haを占めており、このうち国有林は30千haあります。我が県では、慶長杉に代表されるように古くから杉が造林され、智頭林業、若桜林業は全国的にも有名で、良質な杉材の木材生産を行っているほか、県土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止等の多様な公益的機能を有しています。
 県内の民有林は、戦後の拡大造林期に植栽された人工林資源が利用可能な段階を迎えつつあるものの、路網整備の遅れや所有形態が小規模、分散化していることから生産性が低く、また、長期にわたる林業産出額や林業所得の減少、森林所有者の経営意欲の低迷、国産材の生産、流通構造の改革の遅れ等から、間伐等の十分な手入れが行き届かない森林が顕在化しています。このため、林業・木材産業が成長産業として飛躍することを目指すとともに、これらの産業の再生を通じて森林の適切な整備、保全を促進するための取組が進められています。
 一方、国有林は奥地脊梁地帯に多く分布しており、山地災害防止、生物多様性保全、保健、文化、水源の涵養等の公益的機能の発揮に寄与するとともに、適切な森林整備を行う中で木材を安定的に供給しています。
- 鳥取県との地域林政連絡会議では、平成27年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成28年度の民国連携の取組に向けて、「民国連携」の取り組みとしてとして森林病虫害対策・治山対策・獣害被害対策、「主伐・再造林」の取り組みとして林産物の生産、安定供給対策、「早成樹の取り組み」、について意見交換を行ったほか、猪呼谷国有林での一貫作業システムの現地検討会を実施しました。
- 平成29年度は国有林が所在する市町の地域課題や共通課題について、各種会議等の場を利用して幅広い情報収集を行うとともに、各課題について連携した取組を展開します。



(鳥取県との一貫作業システム箇所現地視察検討会の様子)

森林病虫害対策

【課題】ナラ枯れ被害対策（継続）

【取組状況】

- 鳥取県ナラ枯れ被害対策協議会、大山広域ナラ枯れ被害対策協議会に参画し、関係機関との情報共有による連携した被害対策に向けた検討及び事業を実施。
- 鳥取県が実施する樹幹注入、カシノナガキイムシ捕獲トラップ処理等において、大流国有林のフィールドを提供。
- 国有林のナラ枯れ被害木について、地域と連携して立木くん蒸処理等を計画。

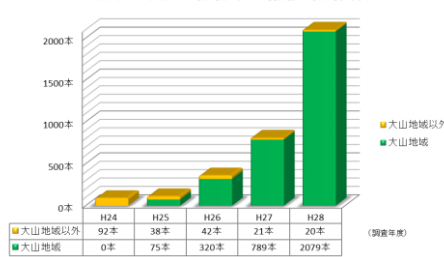
【成果と今後の課題】

- 平成28年度発生したナラ枯れ被害木に係る秋駆除の処理事業は完了。今後、春駆除及びカシノナガキイムシ捕獲トラップ処理及びビニールシート被覆による防除を予定。
- 樹幹注入、カシノナガキイムシ捕獲トラップ処理の実証試験等を通じて、関係機関の知識・技術の向上に寄与。



(大流国有林上空から撮影されたナラ枯れ被害)

大山地域ナラ枯れ被害木の推移(国有林内)



治山対策

【課題1】山地災害発生時の連携（継続）

【取組状況】

- 鳥取中部地震の発生翌日にヘリコプターによる被害確認を実施（県職員も同乗）
- 鳥取県との治山砂防連絡調整会議により、国有林、民有林間の事業の調整及び情報の共有を実施。
- 大規模な山地災害の発生に伴う技術的支援に係る職員の派遣等について情報発信を実施。
- 【成果と今後の課題】
- 緊急時に県との連携した初動がとれるよう情報を共有。
- 国有林、民有林が近接している地域において、一体的な全体計画を作成し、国有林と民有林が連携して、効率的・効果的な荒廃地の復旧整備を実施。
- 「近畿中国森林管理局山地災害対策チーム」による支援制度について、今後、連絡体制の確保・調整を検討予定。

【課題2】地域の安全・安心への取組（継続）

【取組状況】

- 平成28年度の治山事業について地元説明会を実施し、地域住民からの意見・要望等を把握。

【成果と今後の課題】

- 地元説明会により地元住民からの連携・協力体制について構築しスムーズな事業実施が実現。
- 鳥取県の要請があれば、有識者と共に実施する「裏山出張診断」へ参画し、共同で施設の点検等を実施する。



(地震発生に伴うヘリによる鳥取県との合同調査)

木材の利用と供給・低コスト造林

【課題】木材の利用と供給及び低コスト造林（継続）

【取組状況】

- 鳥取県緑の産業活力創生プロジェクト協議会に参画し、原木の安定供給、雇用支援、木質バイオマス発電事業等について、関係機関における情報共有及び意見交換等を実施。
- 平成28年度においては沖ノ山国有林（智頭町）外において、約10,000m³の素材生産事業を実施。
- 治山・土木事業の木材利用において、国産材の活用を積極的に実施し、平成28年度においては91m³の国産材を使用。
- 国有林での一貫作業システム箇所現地視察や、早成樹の取組み事例について、鳥取県などと情報共有及び意見交換等を実施。

【成果と今後の課題】

- 鳥取県と共同（HPのリンク）して森林整備事業等の計画的な事業発注を行い林業事業者等の育成に寄与。
- 平成29年度の素材生産事業は10,560m³の実施計画。内訳は原木市場へ約3,280m³、安定供給システムへ約7,280m³の素材を供給を計画。
引き続き、計画的な原木の安定供給に向けた素材生産事業を実施。
- 治山・土木事業の木材利用において、木材が使用可能な工種では、積極的な木材利用の推進を計画。
- 低コスト造林に向けてコンテナ苗や早成樹の導入について検討する。



（治山工事への県産材利用の様子）



（一貫作業システム箇所現地視察の様子）

鳥獣被害対策

【課題1】鳥取県東部におけるニホンシカの個体数管理（継続）

【取組状況】

- 若桜町鳥獣害対策協議会へ参画し、被害状況等の情報共有及び対策の検討を実施。
- 八頭町において首用くり罠の説明会を実施。

【成果と今後の課題】

- 罠い罠、首用くり罠の貸付等によりニホンシカを捕獲し、個体数管理に寄与。今後、更なる捕獲頭数の増加に向けた取組について検討を予定。

【課題2】県内全域のニホンシカ被害対策の検討（継続）

【取組状況】

- 鳥取県や各市町村が設置している鳥獣被害対策協議会への参画に向けた取組を実施。
- 県境域のニホンシカ捕獲強化に係る対策会議に参加し、関係機関等との意見交換を実施。

【成果と今後の課題】

- 今後、未参画の市町鳥獣被害対策協議会へオブザーバーとしての参画について要請し、連携した取組に向けた検討を予定。
- 各種鳥獣被害対策検討会等において、各地域における個体数管理の手法や広域連携の必要性等について理解を深め、効果的な防除対策に向け市町村や関係団体等との連携も視野に検討が必要。
- 国有林内におけるシカの目撃情報を収集し、今後、関係行政機関等との情報共有により効率的・効果的な有害鳥獣駆除対策を検討。



（首用くり罠説明会の様子）



（捕獲したシカ）